

なつかしの滝子商店街

滝子商店街は名古屋市大の滝子キャンパス西北、旧「郡道」沿いに連なる商店街だ。写真は先に紹介した『名古屋なつかしの商店街』から。

「旧八高とともに 今は昔、ホオ歯にマント姿 明治天皇が旧第八高等学校を視察するというので畑の真ん中に道を開いたという行幸道路が原型。八高の学生が下宿し、食堂や本屋など、かつては学生とのつながりが密だった」と。

この商店街には昔から馴染みがある。名市大に在職中、「昭和」の風情を感じさせる、この商店街をよく歩き、利用したものだ。現代社会学科看板講義「社会調査実習」で、地域と商店街の方にお世話になり、2回にわたって調査した。調査は地元のケーブルテレビでも放映された。「商店街をどうしようてんがい」と題して。

イラストに掲載されたなかで、今でも記憶に残るお店を上から順に紹介してみよう。「カケノ写真機店」さんには、カメラで撮った写真をいつも現像してもらった。学生の調査実習でもお世話になった。「浅田屋うどん店」さんでは、ボリュームたっぷりの定食などをよく食べた。学生人気の食堂だった。

かなり前に閉店した西門近くの二つの店も、なんだか愛着がある。どこかで聞いたような店名の「服部時計店」さんは、90 をかなり超えた店主であった。ずいぶん前にレポートしたが、時計の電池交換に行ったことがある。「わし電池のことは分らんが」と言いつつ、たっぷり時間をかけて交換してもらった。その時間に、八高時代のことなどを聞くことができたので、ちょうど良かった。

もう一軒は「オリオン書店」さんだ。店名からも、歴史を感じることができる。古くからの「古本屋さん」で、大学にはなくてはならないお店だ。でも学生の利用は少なく、いつも閑散としていた。たまに行き、じっくりと本を探して買った後、店主と話すことができた。ここで買って、今でも大切にしているのが、『伊勢湾台風災害誌』である。鉛筆書きで 3500 円と書かれている。講義や研究に活用してきた。

現在これらのお店はないが、いまはどこか寂しげな商店街を歩くと昔を思い起こし、なつかしさを感ずる。



(2016年7月13日)